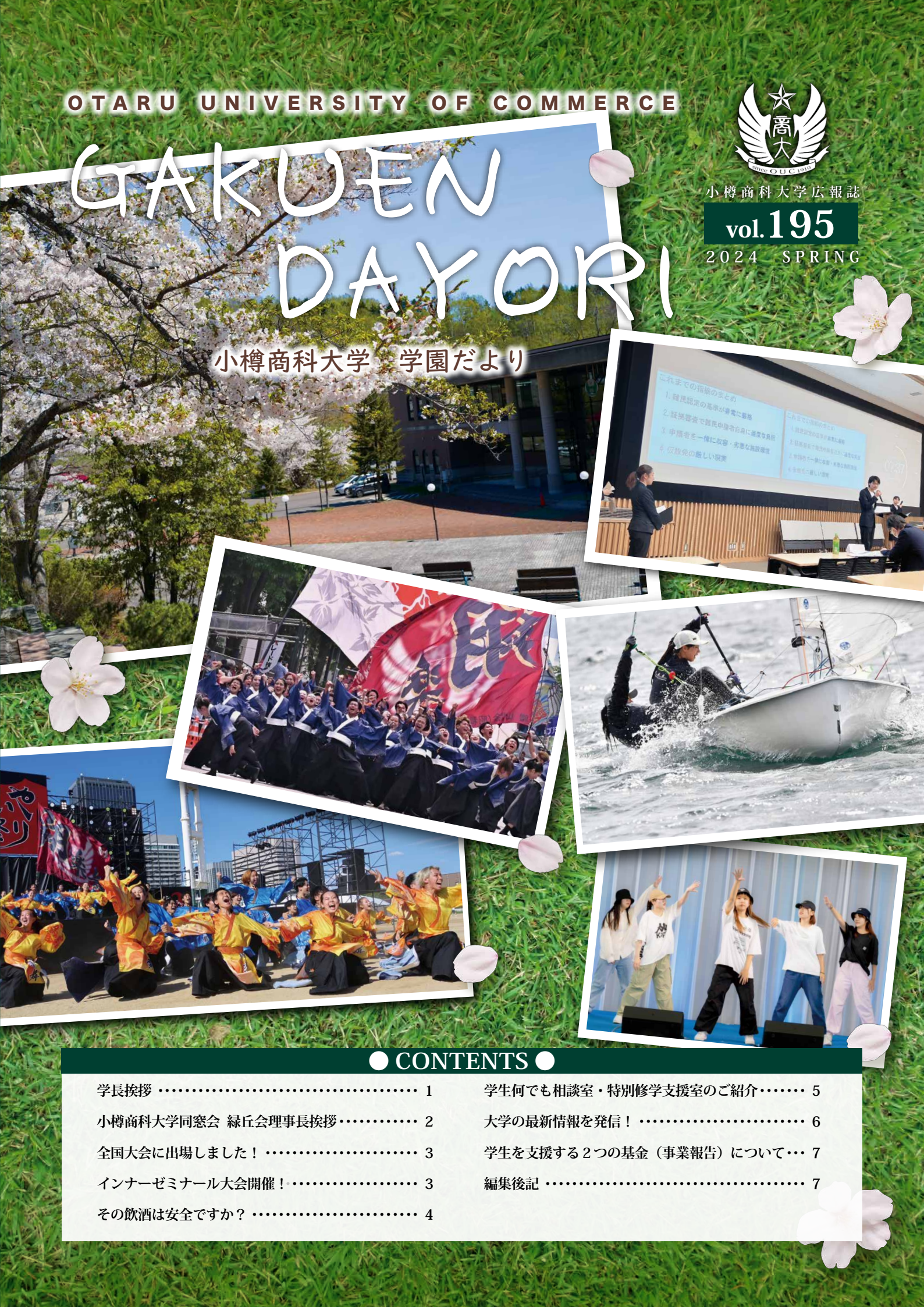




GAKUEN DAYORI

小樽商科大学 学園だより



● CONTENTS ●

学長挨拶 1

小樽商科大学同窓会 緑丘会理事長挨拶 2

全国大会に出場しました！ 3

インナーゼミナール大会開催！ 3

その飲酒は安全ですか？ 4

学生何でも相談室・特別修学支援室のご紹介 5

大学の最新情報を発信！ 6

学生を支援する2つの基金（事業報告）について... 7

編集後記 7

学長挨拶



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。厳しい受験勉強を終え、今は新しい大学生活に胸を膨らませていることと思います。皆さんが新たに本学の一員となることを教職員を代表して心より歓迎します。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、ようやくこれまでの日常を取り戻すことができ、本学でも、ほとんどの授業が対面で行われています。部活やサークル活動もコロナ禍以前の状況に戻ったといえます。また、学生の海外派遣や海外からの交換留学生の受け入れも本来の姿に戻りつつあります。

これからの大学での学びは高校までのものと異なり、自主性が強く求められます。課題に対して仮説を設定し、自らの力で解答を導き出す能力を身に着ける必要があります。本学ではアクティブラーニングや研究指導によりこれらの能力獲得のサポートを行っています。また、リカレント教育やリスキリングという言葉がメディアでも取り上げられる機会が増えたように、大学での学修だけでなく社会に出てからのスキルアップが常に求められています。自ら学ぶ姿勢を大学時代には是非身に着けてください。

大学での学習の内容も大きく変わりつつあります。国際化への対応だけでなく、それらに加えてDXに対応するため、データサイエンスなどの知識が求められています。文理融合教育が叫ばれるなか、本学は2022年4月に帯広畜産大学、北見工業大学と経営統合し、北海道国立大学機構を創設しまし

た。三大学はともに教育・研究面で協力しており、相互に授業をオンラインで配信しています。本学はアントレプレナー副専攻科目などを提供しており、札幌にある本学のビジネススクールで教授している知見なども提供しています。旧来の文系と理系の垣根が取り外されつつあり、多様性、社会の変化への対応、複眼的な視点を持つことなどがますます重要となっています。

—昨年2月のロシア軍のウクライナ侵攻以降、世界情勢は急速に複雑化と不透明さを増しています。イスラエルとパレスチナの紛争や台湾情勢なども含め我が国もいや応なしにその流れに巻き込まれています。政治情勢の変化は経済活動にも密接に関連しており、資源や農産物の価格上昇など私たちの生活にも影響を及ぼしています。皆さんには是非このような世界の変化に敏感であってほしいと思います。

大学の4年間は自分の未来を創るための大変貴重な時間です。自分自身の可能性を信じ、失敗を恐れず、勉強のみならずあらゆることに挑戦して下さい。

国立大学法人北海道国立大学機構
小樽商科大学長

穴沢真

小樽商科大学新入学生に 対するメッセージ

新入生の皆さん、小樽商科大学への入学おめでとうございます。同窓生を代表して心よりお祝い申し上げます。昨年5月に新型コロナウイルスの類型変更があったとはいえ、高校生活の多くの時間をコロナ禍の環境で過ごしながらも、これを乗り越え入学された皆さんに改めて敬意を表します。

さて、商大は国立大学では唯一の社会科学系単科大学として小規模ながら創立以来110年を超え、グローバルな人材を全国に送り出し国際的な場で活躍している同窓生も数多く輩出しています。

これは商大における教育の基本や特徴でもある「実学」「語学」「品格」を重視した教育が人材育成・創出に有用ということの現れでしょう。加えまして、3大学経営統合によりスタートした文理融合の教育環境は、入学後の皆さんが高いレベルの「学びの幅の広がり」として体験されることでしょう。

社会環境の変化により、今や社会人も学び直し（リカレント教育・リスキリング）を求められる中で、皆さんは最新かつ多様な教育機会を得て、最先端の環境下にあるということを認識・理解しこれからの4年間に臨んでください。

そして大学生になると「自主性」が求められ、教育メニュー・時間・情報などを皆さん自身の考えで選択して行かねばなりません。これからの4年間は“自分探し”として皆さん自身発の取組みにて成果を得ることを期待されています。これら実現への参考として、実学・語学・品格の有用性を学問とは異なる視点で、先輩個人の社会体験からご紹介します。

「実学」は将来の社会人として「自分の考え方の軸」を身に付けるために、様々な物事に挑戦してみましょう。「自分にはこれがあるというスキルと自信」があれば、この先の社会生活において、仮に組織を飛び出しチャレンジする機会にも大きな力になります。

「語学」はコミュニケーション手段として大変重要ですが、前提となる“何を伝えるか？”という正しい日本語の使用も重要です。多様な社会実態も理解しながら正しい日本語の使用も意識しましょう。

そして「品格」は社会における自分の在り方・生き方を表すもので夫々の考え方がありますが、私は「Integrity」ということを大切にしています。

最後に、商大には小規模な大学だからこそ育まれてきた「学生・教職員・卒業生の強い一体感」があります。商大生活で培われる固い絆と自身のスキル・自信が皆さんの大きな将来財産になることを期待しております。



公益社団法人 緑丘会
理事長 三浦 和哉



小樽商科大学同窓会 緑丘会について

小樽商科大学の同窓会である「公益社団法人緑丘会」は、1939年（昭和14年）に法人化され、本部を東京・池袋サンシャイン60ビル57階に置き、全国に24の支部、会員数約4,300名を擁しています。公益財団法人小樽商科大学後援会ともども母校の基盤向上のために、年間2千万円以上の規模で助成事業を行っております。

主な助成事業は次の通りです。

- ①学生の社会人基礎力養成、就業力育成に関する普及、啓発を目的とした「キャリア形成支援企業等セミナー」の主催
- ②正課教育である「エバーグリーン講座」の運営支援、講師選定及び資金助成
- ③グローバルセミナーⅡへの講師派遣
- ④国際的な視野に立つ人材育成を目的とした奨学金給付及びTOEICの受験費用補助
- ⑤就職支援として就職アドバイザーの設置と就職活動資金の貸与
- ⑥成績優秀者や留学生等に対する奨学金の助成
- ⑦緑丘祭等への支援

全国大会に出場しました！



水泳部

●第70回 全国国立大学選手権水泳競技大会

結果：
男子50m 自由形
田中 将平
予選敗退・予選第30位
男子100m 自由形
田中 将平
予選敗退・予選第27位

漕艇部



●第50回全日本
大学ローイング選手権大会
結果：男子舵手付きフォア
第9位（32クルー中）

●第64回全日本
新人ローイング選手権大会
結果：女子シングルスカル予選敗退
男子ダブルスカル予選敗退
男子舵手付きフォア準決勝敗退

ヨット部



●日建・レンタコムカップ 第31回全日本学生女子ヨット選手権大会
結果：470級 32位 / 全37艇

将棋部



●第79回学生会名人戦
結果：1回戦敗退

第35回

Innen Seminar インナーゼミナール大会 開催!

ゼミナール協議会は12月7日（木）に学生自治会と共同で、インナーゼミナール大会を開催しました。本大会はゼミ同士の研究内容の交流を主な目的として開催される、今年で35回目となる伝統ある大会です。

加賀田ゼミナール「大谷翔平の活躍と株価収益率の関係」、木田ゼミナール「おたる宏楽園の事例調査：サービスプロフィットチェーンと二要因理論を用いて」、張ゼミナール「難民と私たちの未来のために」、木村ゼミナール「researchmapの情報をういた異なる研究分野間の研究者マッチングの試み」、片桐ゼミナール「ヤングケアラーの認知とその課題」、田中ゼミナール「仁木町のワイン産業を活用した地域活性化」といったテーマでした。全ての参加ゼミがわかりやすい説明に努め、有意義な大会となりました。また審査員の先生方には質問、評価をして頂き、活発な議論が行われました。優勝には張ゼミが選ばれました。



本大会は自ゼミの研究分野についての知識を持たない聴衆に対してわかりやすく、かつその分野に興味を持たせる発表を通じて、自分達の活動を振り返ると共に、今後の研究活動へと繋げる一助とすることを目指しております。来年度以降も多くのゼミに参加して頂けるように努めて参ります。

ゼミナール協議会 椎木 太一

保健管理センターからのお知らせ

その飲酒は安全ですか？

2012年、本学で飲酒事故があり一人の若く貴重な命が失われてしまいました。私たちはそのことを深く心に刻まなくてはなりません。大学生の飲酒に伴う事件、事故は全国で繰り返し起きていますので、飲酒の危険性を理解し、命や健康が脅かされないことがないように行動しましょう。

20歳未満は飲まない、 20歳未満には飲ませない

成年年齢は18歳ですが、20歳未満は飲酒は禁止されています。若年者の飲酒は悪影響が多いからです。

●**身体への影響**：脳の機能低下や性腺機能障害を起こします。

また、アルコール依存症が数年という短期間で発症し、アルコールから抜け出すことができなくなります。

●**事故・事件のリスク**：交通事故、転倒・転落、溺水のような事故にあったり、暴力行為などの犯罪に巻き込まれる危険性が高まります。



飲酒したら運転しない、 飲酒した人に運転させない

大学生の飲酒運転により、歩行者や同乗者を死傷させる事故が全国で相次いでいます。

少しの飲酒でもアルコールは脳に作用し、判断力が低下します。自動車、バイク、自転車、電動キックボードも運転してはいけません。



アルコールに弱い人は飲まない、飲ませない

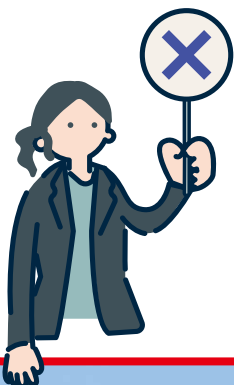
約4割の日本人は遺伝的にアルコールの分解酵素の働きが弱く、アルコールの分解が進みません。酵素の働きが弱いと、有害物質である発がん物質のアセトアルデヒドが体内にたまってしまい、健康障害を引き起こします。そのため、酵素の働きが弱い人は飲まないようにして、周囲の人は飲ませてはいけません。酵素の働きは遺伝的に決まっていますので、『飲んで鍛えれば強くなる』ということはありません。

アルコールの分解酵素の働きについてはアルコールパッチテストで確認できます。保健管理センターでも例年6月頃に実施していますので、ホームページ等でご確認ください。



STOP! アルコールハラスメント –しない・させない–

飲酒の強要や飲まない人を侮辱することは人権侵害です。命を奪うこともあります。次のような行為は全てアルコールハラスメントです。絶対にしない・させないようにしましょう。



- 飲酒の強要**：上下関係・部やサークルの伝統によるはやし立てなど心理的圧力をかけて飲ませること
- イッキ飲ませ**：一気のみ、早飲みをさせること
- 意図的な酔いつぶし**：酔いつぶすことを意図して飲み会を行うこと、傷害行為にあたる
- 飲めない(飲まない)人への配慮を欠くこと**：本人の体質や意向を無視して飲酒を勧める、飲まないことをからかう、侮辱すること、アルコール以外の飲み物を準備しないこと
- 酔ったうえでの迷惑行為**：酔って絡む、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラその他のひんしゅくな行為

学生何でも相談室・特別修学支援室のご紹介

小樽商科大学には「学生何でも相談室」「特別修学支援室」という二つの相談室が設置されており、
学生の皆さんのさまざまな相談に対応しています。

学修のことや大学生活のことでの相談がありましたら、お気軽にご相談ください。

学生何でも相談室でできること

学生何でも相談室は学生生活のさまざまな悩みをカウンセラー（臨床心理士・公認心理師）に相談できる場所です。相談については守秘義務がありますので、相談者の承諾なく内容が外部に報告されるようなことはありません。たとえば、次のような相談をすることができます。

- 大学生活になじめない
- 友達ができない
- 自分のあり方や性格について考えてみたい
- 部活・サークルをやめたい
- 授業科目の履修方法がわからない
- 勉強への意欲や目的意識がもてない
- 卒業後にやりたいことが見つからない
- 就職活動が思うように進まない

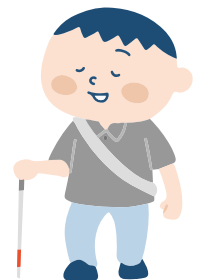


特別修学支援室でできること

特別修学支援室では、障がい（身体障がい、発達障がい、精神障がい、病弱・虚弱等）のある学生の皆さんの学ぶ権利を保障するために、授業に関する配慮調整を行っています。特別修学支援室には教員が常駐しており、授業担当教員や学内外の各部署と連携しながら、それぞれのニーズに合わせて各側面から大学生活をサポートしていきます。

身体障がいのある学生への支援の一例

- 教室移動に時間がかかる場合、遅刻して入室することを許可する
- 定期試験において拡大した試験問題・解答用紙の使用を許可する
- 障がいによって受講が困難な科目がある場合、受講可能な科目による単位振り替えを行う
- 視覚や聴覚を補助する情報支援機器の貸出を行う



慢性疾患等のある学生への支援の一例

- 体調不良時の途中退室を許可する
- 定期試験の時間延長や、その際に別室で受験することを許可する
- 体調不良が続いた場合に、レポート等の提出期限の延長を許可する



発達障がいのある学生への支援の一例

- 大学生活に関する日常的な困りごとに対するカウンセリングを行う
- 授業中に集中力の持続が困難な場合に、クールダウンのための途中退室を許可する
- 授業やゼミナール担当教員に対し、障がい特性についての情報提供を行う
- 学外の就労支援機関と連携し、卒業後の進路に向けた準備を行う



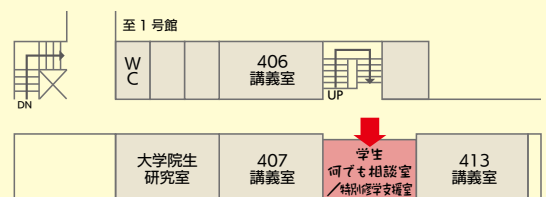
学生何でも相談室／特別修学支援室（3号館4階）

電話：0134-27-5241

メール：soudan@office.otaru-uc.ac.jp（相談室・支援室共通）

URL：<https://www.otaru-uc.ac.jp/student/counselling/>（相談室）

https://www.otaru-uc.ac.jp/special_support/（支援室）





大学の最新情報を発信！

「ブログ 商大くんがいく！」

本学の職員と学生スタッフがタッグを組んで作っている「商大くんがいく！」ブログでは、商大生の活躍はもちろん、学内の旬のトピックスについて紹介しています。

過去の記事も含め
こちらからご覧いただけます！



ブログ学生スタッフ募集中！



ブログ「商大くんがいく」を一緒に作りませんか??
ブログ学生スタッフは、取材をしたり、自分の興味があることを記事にしたり、様々なことをできます。
学生スタッフ同士の交流に加えて、大学の教職員やインタビューを通してたくさんの人と関わることができるので、大学生活や将来の目標を見つけるきっかけになるかも?!

北海道新聞学生記者としても活躍中！



本学と北海道新聞社が包括連携協定を結んだことがきっかけで、北海道新聞(小樽・後志版)に「学生記者コーナー」としてブログ学生スタッフが書いた記事を掲載できるようになりました。

記事のテーマを決めて北海道新聞の方と話し合いをし、実際に取材に行って記事を書きます。就活の時に役立つ、ガクチカにもつながるかも…!

特にこんな人におすすめです

- ✓取材をしたり、原稿を書いたりするのが好き
- ✓将来は出版関係の仕事に就きたい
- ✓小樽・小樽商大のことをもっと知りたい
- ✓他の人とはちょっと違う経験をしてみたい



ブログ学生スタッフ、北海道新聞学生記者に興味がある方は、右記の連絡先までお気軽にご連絡ください!

連絡先

メール : shoudaikun@office.otaru-uc.ac.jp
X (旧 twitter) : @shoudaikun_blog
(ブログ学生スタッフ)



学生を支援する2つの基金(事業報告)について

皆様からご寄附をいただきました修学支援基金及び教育振興基金につきまして、令和5年度は以下の事業を実施しております。

○修学支援基金について

1) 授業料免除特別枠事業

2023年度前期 対象者 6名の授業料1 / 3を免除しました。

2023年度後期 対象者 8名の授業料1 / 3を免除しました。

○教育振興基金について

企画事業名	合計
(1) 学生の正課・課外活動への支援事業 なし	0
(2) 学生の国際交流活動への支援事業	
1. グローバル人材育成のための TOEFL 受験料補助事業	350,000
2. 事情科目への参加費用補助	4,000,000
3. 海外危機管理サービス	350,000
(3) その他基金の目的達成に必要な事業	700,000
計	5,400,000

※事業実績額は令和5年度の決算後にホームページ等でお知らせします。



編集後記

学園だよりは、毎号、教職員および学生の皆様の協力を得て作成しています。今回も、多くの方にご協力いただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

今後も、商大生活躍や大学生生活等、幅広くお伝えしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(学生支援課)

小樽商大の新鮮な情報を発信!

ブログ「商大くんがいく!」



商大職員と学生がタッグを組んで作っている「商大くんがいく!」ブログでは、商大生の活躍はもちろん、学内のさまざまな旬のトピックスがご覧になれます。
http://www.otaru-uc.ac.jp/shoudai_blog/